

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・〔新主題〕/(分野)						
H010A301		地域マネジメント論(Regional Management)										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	履・限	担当教員						
必修	2	3年	福祉健康科学部	前期		氏名 野口 定久 E-mail 内線						
授業の概要	これからの超高齢少子人口減少社会を支える地域福祉の政策と実践、地域再生計画、居住福祉のまちづくり事例、コミュニティ・小規模多機能施設、家族やジェンダー等の対象テーマをめぐって地域マネジメントの理論・政策・実践・技術を体系的に学ぶ。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)											
目標1	社会資源の把握、ニーズの発見、問題解決、政策化等一連の地域マネジメントとその援助プロセス、技術を修得する。	1	2	3	4	5	6					
目標2	地域において社会福祉の制度・サービスの運営、制度外サービスの開発を日捐した研修コンテンツの推進力と開発力を修得する。	1	2	3	4	5	6					
目標3												
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容	1 オリエンテーション(講義)：福祉コミュニティ、地域福祉計画、地域福祉マネジメント 2 人口減少時代の地域マネジメント：人口オーナス、合計特殊出生率、労働市場政策 3 地域マネジメントの枠組み：住民の主体形成、ノーマライゼーション、豊かな公共 4 地域マネジメントの理論と実際：強い市民と弱い市民、コモンズの荏刺、分かち合い 5 福祉コミュニティ：ソーシャル・キャピタル、福祉的価値、見守り支援 6 地方自治体の福祉行政：地方分権改革、地方財政再建、コミュニティ・ガバナンス 7 政策と計画：経常収支比率、ソーシャル・インパクト・ボンド、築市場 8 地域福祉計画の戦略：市民社会、ベンチマーキング、ソーシャル・アクション 9 住民参加と組織化：コンフリクト 良きガバナンス 住民主体 10 居住福祉のまちづくり：居住福祉資源、居場所、空き家 11 過疎地域で住み続けるために：自然生態系、地域循環型経済、コミュニティバス 12 地域包括ケアシステムとサポートネットワーク：多世代交流型福祉拠点、介護保険、地域ケア会議 13 推進組織と多目的サービス供給：社会福祉法人の公益的活動、社会的企業、社会起業 14 コミュニティソーシャルワーク：アウトリーチ、エンパワメント、制度の活用 15 地域福祉のベクトル：ゆるやかな共同体：地方再生の投資戦略、過疎地域自立促進計画、技術革新											
ラーニング	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	☐ 小テスト、小グループでのディスカッション ☐	工夫	その他の								
時間外学習の内容と時間の目安	準備 配付資料や参考文献等の情報を必要に応じて予習する(15h)。 事後 野口定久著『人口減少時代の地域福祉』ミネルヴァ書房、2016年 野口定久『人口減少時代の地域福祉』ミネルヴァ書房、2016年											
教科書	野口定久著『人口減少時代の地域福祉』ミネルヴァ書房、2016年											
参考書	野口定久著『ゼミナール 地域福祉学一図解でわかる理論と実践』中央法規、2018年											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
定期試験		50%	○	○								
小テスト		50%	○	○								
定期試験を行います。また、小テスト(25点×2回)を実施します。評価は、定期試験と小テスト(2回)の合計点で行います。												
注意事項	出席は重視いたします。評価の中にも含めますので毎講義の出席を希望いたします。											
備考	教科書は事前学習および講義で使用しますので購入しておいてください。											
リンク	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)																																																																																																																																			
H010A4Q1		ライフサポート論(Practice of Life-Support)																																																																																																																																								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	履・限	担当教員																																																																																																																																				
必修	2	4	福祉健康科学部	前期		氏名 武内珠美、渡辺亘、溝口剛、三好禎之、上白水悦子、安藤敬子 E-mail t-mizo@oita-u.ac.jp 内線 7522																																																																																																																																				
授業の概要 本科目は、『バイオ・サイコ・ソーシャル』に関わる生活の包括的な支援の在り方について、それぞれの領域における具体的な方法論を学ぶ科目である。『地域包括ケア戦略』において学んだ政策・制度的な枠組みの中で、『バイオ・サイコ・ソーシャル』の各領域がどのように機能し、かつ連携・共同することができるのか、またそれらを包括的にマネジメントする方法とその必要性を学ぶ。																																																																																																																																										
具体的な到達目標 DP等の対応(別表参照) <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th></th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標1 トータルな生活支援としての「ライフサポート」を理解することができる</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標2 ライフサポートにおけるソーシャルワークの必要性を理解することができる</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標3 ライフサポートにおける地域看護の必要性を理解することができる</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標4 ライフサポートにおける心理的支援を理解することができる</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標6</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標7</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標8</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標9</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標10</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>																			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	目標1 トータルな生活支援としての「ライフサポート」を理解することができる	○	○	○								目標2 ライフサポートにおけるソーシャルワークの必要性を理解することができる	○	○	○								目標3 ライフサポートにおける地域看護の必要性を理解することができる	○	○	○								目標4 ライフサポートにおける心理的支援を理解することができる	○	○	○								目標5											目標6											目標7											目標8											目標9											目標10										
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10																																																																																																																																
目標1 トータルな生活支援としての「ライフサポート」を理解することができる	○	○	○																																																																																																																																							
目標2 ライフサポートにおけるソーシャルワークの必要性を理解することができる	○	○	○																																																																																																																																							
目標3 ライフサポートにおける地域看護の必要性を理解することができる	○	○	○																																																																																																																																							
目標4 ライフサポートにおける心理的支援を理解することができる	○	○	○																																																																																																																																							
目標5																																																																																																																																										
目標6																																																																																																																																										
目標7																																																																																																																																										
目標8																																																																																																																																										
目標9																																																																																																																																										
目標10																																																																																																																																										
授業の内容 1 ライフサポートの概念整理および社会科学的視点の意義 2 ライフサポートにおける社会・コミュニティの理解 3 ライフサポートにおける当事者・ニーズの理解 4 ライフサポートにおけるソーシャルワークの視点 5 ライフサポートとしての地域福祉の実践 6 ライフサポートとしての地域看護活動の概念 7 ライフサポートとしての地域看護活動の歴史 8 ライフサポートとしての地域看護活動の特徴 9 ライフサポートとしての地域看護活動の実践 10 ライフサポートにおける専門職との連携について 11 ライフサポートとしての子ども・子育て支援の考え方 12 ライフサポートとしての子ども・子育て支援の実践 13 子どもと青年に関するライフサポートの考え方 14 子どもと青年に関するライフサポートの実践 15 ひきこもりと自立支援をめぐるライフサポート																																																																																																																																										
ラーニング	A:知識の定着・確認 ☐ 小集団討議: KJ法、リフレクションレポートなどを活用する。 B:意見の表現・交換 ☐ C:応用志向 D:知識の活用・創造					工夫・その他	臨床・実務事例の例示や分析を活用する。																																																																																																																																			
時間外学習の内容と時間の目安	準備 講義毎の単元を確認し、これまでの学習を踏まえて講義の準備を行うこと。(15h) 事後 講義毎に提供される知識と技術を整理し、ライフサポートのトータルな理解に向けた復習を行うこと。(30h)																																																																																																																																									
教科書	用いない。適宜参考資料を活用する。																																																																																																																																									
参考書	適宜紹介する。																																																																																																																																									
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10																																																																																																																														
	社会福祉領域から提出されたレポートの採点	20%	○	○	○																																																																																																																																					
	地域看護領域から提出されたレポートの採点	20%	○	○	○																																																																																																																																					
	心理学領域から採点されたレポートの採点	20%	○	○	○																																																																																																																																					
	最終試験	40%	○	○	○																																																																																																																																					
注意事項	積極的な受講態度は歓迎するが、私語は厳禁する。																																																																																																																																									
備考	とくになし																																																																																																																																									
リンク	URL																																																																																																																																									

担当教員の 実務経験の有無	○
教員の実務 経験	看護師・保健師、臨床心理士・公認心理師、社会福祉士